「特集 建設分野の魅力」第2回

24時間365日 道路を安全に

8月は「道路ふれあい月間」

私たちの暮らしに欠かせない道路。8月は国土交通省が定める「道路ふれあい月間」で、国や地方自治体は期間中、道路の役割や重要性をあらためて認識してもらおうと啓発活動を集中して行う。安全、安心、快適な道路は24時間365日、県の道路パトロール隊や緊急施工業者らの努力に支えられている。道路維持管理の最前線を取材するため、兵庫県北部の但馬地域を訪ねた。

（取材協力＝兵庫県建設業育成魅力アップ協議会）

但馬地域の道路パトロール隊に密着

養父土木事務所

道路点検中に亀裂発見
通行規制し事故を防止

養父市出合。国道9号を鉢伏高原方面に走り、交差点で分岐して県道に入るとすぐに、1基の道路情報板が現れた。「崩落のため通行止め　県道269号尾原―葛畑」という文字が点灯している。

「この先には鉢伏山や氷ノ山があり、夏場は登山、冬場はスキーに大勢の人々が訪れます」と県養父土木事務所の井口智貴道路第2課長。遠方からのドライバーが早期に通行止めを把握し、迂回ルートを選択できるために情報発信している。

そこから約3キロ行くと、再び道は分岐。右手にあるのが、通行止めとなっている県道269号だ。関係者同伴で特別に立ち入りを許された現場は、予想を超える惨状だった。

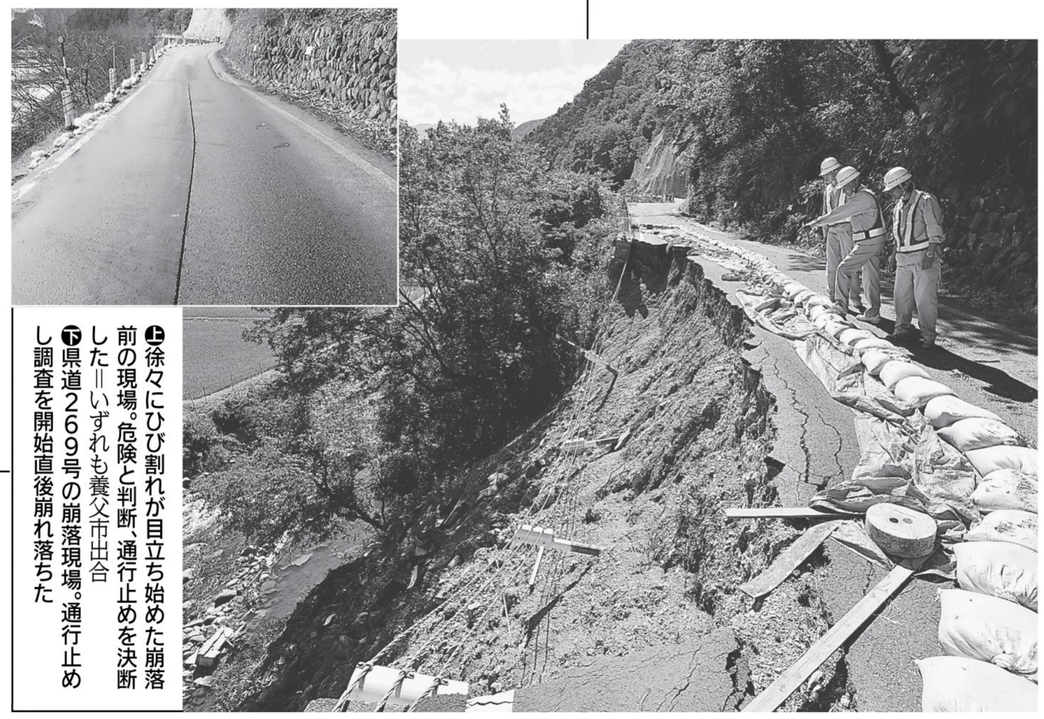
同道の北側には標高804メートルの宝引山があり、南側には円山川の支流・八木川が流れる。その道路の川側が約15メートルにわたって崩れ、川に向かって崩落が起きていた。路肩のガードレールは崩落の際の強い力で引っ張られ、根元が露出している。

県が最初に異変を認知したのは今年2月。「パトロール中、道路の中央付近に1・5センチ幅のひび割れを発見し、報告しました」と道路パトロール隊の藤田登美夫隊員。毎日のパトロールで監視を続け、1カ月後の3月2日に「他にもひび割れが目立つようになった」と報告。雪解け水が地面に浸透し、現場の地盤が緩んだとみられる。

「通行を規制すべきか非常に悩みました。スキーシーズン中で交通量は多く、一度通行止めにすれば住民生活や観光への影響は必至。一方で県民の安全を守る責務もある。悩んだ結果、その日から尾原―葛畑間の約2キロを通行止めにしました」と井口課長。

その直後から民間業者が現場調査を進め、3月14日に業者から「路肩崩落」の一報が入った。井口課長は「早めの判断がよかった。今回は1人の犠牲者も出ませんでしたが、一歩間違えば大事故になっていたかも」と打ち明ける。

現在は崩落が拡大しないようブルーシートで覆って調査を継続。崩落原因を見極めて対策工法を決定し、スキーシーズン到来の今年12月までに工事を終えて、通行止めを解除したいと考えている。



上徐々にひび割れが目立ち始めた崩落前の現場。危険と判断、通行止めを決断した＝いずれも養父市出合
下県道269号の崩落現場。通行止めし調査を開始直後崩れ落ちた

新温泉土木事務所

道の駅で交通情報発信

但馬を代表する景勝地・余部。JR餘部駅の下の国道178号沿いには、各種道路情報を発信する「道の駅あまるべ」がある。

地元が運営する物販・飲食施設と、県が管理する道路施設で構成。年間10万人を超える人が訪れる人気スポットだ。中には大きなモニター画面があり、ドライバー向けに国道や主要な県道の通行規制情報を発信。周辺の観光や気象などの情報も提供している。

今年10月からは公衆無線LANサービス「Wi-Fi（ワイファイ）」を整備し、タブレット端末も常設。一般県道の情報を加えより詳しい情報を発信する計画だ。「ドライバーに最新の道路情報を発信することも、道路管理の重要な任務です」と県新温泉土木事務所の大畑雅哉道路第2課長は話す。

次に、山陰近畿自動車道の香住IC付近に、自動車専用道のパトロール隊を訪ねた。高速道空白地帯だった日本海沿岸の鳥取―豊岡―宮津間では山陰近畿道の整備が進められており、県内では13・4キロが供用され、新温泉土木事務所が管理している。

パトロール隊員に話を聞くと、落下物が大事故につながる可能性が高い自動車専用道ならではのパトロールの苦労があるという。落下物は但馬地域特有で、冬用タイヤ交換時期に多いホイールキャップや海産物を運ぶための発泡スチロールが多く、過去には工事現場用の簡易トイレなど驚くような落とし物もあったそうだ。

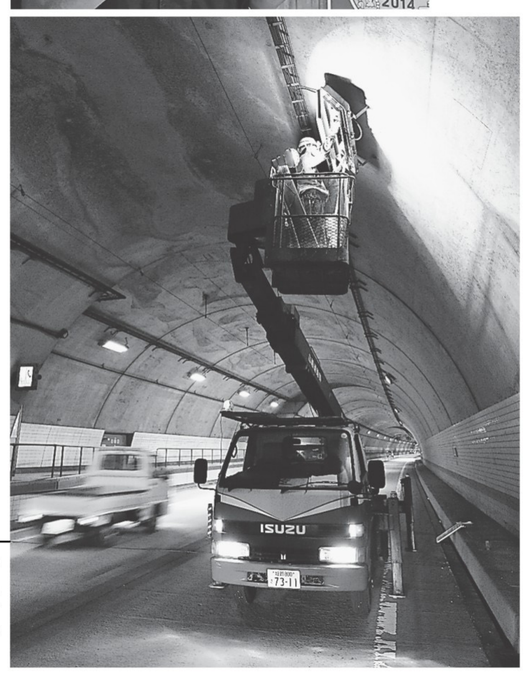
小さな落下物は見つけ次第、隊員自らが回収。作業のそばを高速走行中の車が走り抜ける。「隊員間で意思疎通しながら、自らの安全にも気をつかって作業しています」と西岡輝男隊員。

「道の駅あまるべ」では今年10月からタブレット端末で詳しい情報を発信する＝美方郡香美町香住区余部

車道での危険な作業も

山岳部を通る山陰近畿道では、7カ所あるトンネル内部の照明管理も重要な仕事。ちょうど照明器具交換工事中だった香住トンネルが作業を行っていた。約5メートルの高さにある照明灯を高所作業車で手入り口で片側通行規制をかける中、県から委託を受けた「山陰道路」監督の岡本善彦氏は話す。

「トンネル内は危険と隣り合わせ。安全第一で効率的に仕事を進めています」と現場と隣り合わせ。安全第一で効率的に仕事を進めています」と現場



トンネル内で照明器具を交換する委託業者。危険と隣り合わせの作業＝美方郡香美町香住区、香住トンネル

豊岡土木事務所

通行妨げる穴や落石、土砂…
路面の異常 素早く対処

最後に、都市部、山間部、沿岸部と多彩なエリアを受け持つ県豊岡土木事務所へ。浅貝義則道路第2課長とパトロール車に同乗し、現場を取材した。

市中心部の事務所を出て間もなく、3人1組の隊員らは路面の穴を発見。車を路肩に停め、作業中であることを知らせる回転灯をつけた。車から運んだのは常温で使える舗装補修材。柔らかなアスファルト材のような補修材を穴の上に適量置き、スコップでたたいて埋め込み、表面を平らにする。車を停めてから1分とかからない早業だが、その間も隊員の1人が紅白の手旗で作業する隊員の安全を確保。見事なチームプレーだ。「道路は安全に利用できて当たり前」と尾﨑研仁隊員。

「パトロール車は制限速度よりも遅い速度で走ります。低速で走るからこそ、路面の異常を目でしっかり確認し、体で感じることもできます」と浅貝課長。とはいえ、交通の妨げとならない配慮も必要で、パトロール車は随時待避所に停車し、後続車を先に行かせる。

車が山間部に入ったところで、隊員らが路面に直径10センチの落石を発見。車を降りて除去するとともに、石の出元である山を確認する。「付近にはシカ、イノシシなどの野生動物が多く生息しており、それらが山道を通った際にはじいて路面に石が落ちることが多い」という。

この日は路肩を土や木の枝が覆ってしまった現場もあった。その都度、隊員らは竹ぼうきやスコップなどの道具を取り出し、作業を繰り返した。

その後、車は日本海沿いの県道11号へ。海岸線沿いを縫うように走る道で、道路のすぐそばに崖が切り立ち、強い北風の影響を受けて落石も少なくないというエリアだ。落石防止のための金網が施してあるが、それらに問題がないかどうかをチェックすることも、隊員の仕事になる。

雪のない時期は、冬場に備えた雪国ならではのチェックポイントも。「マンホールのふたです。路面から浮いていると、除雪の際に除雪機の排雪板にひっかかってしまいます。そういうことも注意深く見ています」。この日同行したパトロールは約3時間だったが、一日の走行距離は約150キロに及ぶ。

道路パトロール隊の"七つ道具"。竹ぼうきや舗装補修材など、さまざまな状況に対応できる＝豊岡市幸町、豊岡土木事務所

道路に堆積した土砂や枝などを除去するパトロール隊員。3人1組のチームプレーで迅速に作業をこなす＝豊岡市内

冬、パトロール隊員は除雪隊員に"変身"。雪のない時期も除雪に支障を来す恐れのある障害物に目を配る＝豊岡市内

地元建設会社と連携も

道路管理は行政の仕事だが、行政単独では作業の全てをまかないきれない。そこで活躍するのが、地元を知り尽くした機動性のある民間業者だ。

豊岡市に本社を置く「金下工務店」は、県の委託を受ける緊急施工業者の一つ。悪天候で路面に土砂が流出した際の対応や、夜間早朝の落石、動物の死がい除去などを通じて道路の安全を守っている。

「常に待機態勢を取り、緊急時に備えています」と金平幸嗣社長。

「道路の安全確保や防災工事を担う責任は大きい。建設業の立場で住みよいまちづくりに貢献できるよう、使命感を持って取り組んでいきます」と力強い。

未来につなぐ
つくるひと・まもるひと